



『DOBOT AudiR8LMS』

Yoshiaki Katayama

Roberto Merhi Muntan

Seiya Jin



大会概要

2023年 SUPER GTシリーズ 第5戦

大会名称

2023 AUTOBACS SUPER GT Round5 SUZUKA GT 450km RACE

開催日時

8月26日 土曜 (予選) 8月27日 日曜 (決勝)

開催サーキット

鈴鹿サーキット (1周 : 5.807km)

所在地 : 三重金鈴鹿市稲生町7992

同時開催レース

2023 FIA-F4 選手権 第7戦・第8戦

Porsche Carrera Cup Japan 2023 第9戦・第10戦

主催

関西スポーツカークラブ (KSCC)

鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)

ホンダモビリティランド株式会社

公認

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省 / 国土交通省 / 自由民主党モータースポーツ振興議員連盟 / 三重県 / 鈴鹿市 / 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会 / 一般社団法人鈴鹿市観光協会 / 鈴鹿商工会議所



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O



神 晴也
SEIYA JIN

生年月日 2000年10月30日
出身地 大阪府
身長 175cm
体重 70kg
血液型 Rh+O

■ 監督 太田 雅文
Masabumi Ota

■ スタッフ チーフエンジニア Mattia Oselladore
クルーチーフ 小倉 啓悟
チーフメカニック 片岡 恵人

■ スポンサー

DOBOTジャパン株式会社	エルアイピーリゾート株式会社
ザーレン・コーポレーション株式会社	城東電機株式会社
TON E株式会社	ブランデュース株式会社
高新自動車学校	株式会社リブレ
ニチアス株式会社	見田工作株式会社
エバー株式会社	株式会社PACIFIC RACING TEAM
コスモ開発株式会社	朝日金属株式会社
株式会社安藤・間	有限会社大和工業
岡田金属株式会社	有限会社ます徳
株式会社ジョイフル設備	アクセル有限会社
カトー機械株式会社	ORIC
株式会社デジテックエイチピー	SPIN OFF
株式会社マイティミズタニ	
MIDTOWN BBQ	
ウエスタンデジタル合同会社	
青山エレベーター株式会社	

◆ 予 選

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 33℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 52℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 15時38分 (GT300クラスQ1-B組開始)



前回の第4戦富士で初表彰台を獲得し、45kgのサクセスウェイトを搭載したTeam LeMansのDOBOT Audi R8 LMS。悲願の優勝を目指すチームは、Aドライバーの片山義章、Bドライバーのロベルト・メリ・ムンタン、Cドライバーの神 晴也の3人体制で、灼熱の鈴鹿450kmレースに挑んだ。

GT300クラスでは、全戦でA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。鈴鹿サーキットで行われる第5戦には、シーズン当初から2台減の25台が参加し、#6 DOBOT Audi R8 LMSはB組でまずはQ2進出を目指した。

#6 DOBOT Audi R8 LMS (サクセスウェイト 45kg)**予選結果：10位 (予選Q1ベストタイム：1分58秒982/片山選手) (予選Q2ベストタイム：1分59秒613/ロベルト選手)**

真夏の強い日差しが照りつける鈴鹿サーキットでは、気温33℃、路面温度52℃という厳しいコンディションのもと、15時38分にQ1-B組がスタートした。今回のQ1も、第2戦と第4戦でQ1突破を果たしている片山が担当。2周でタイヤを温めた片山は、3周目にタイムアタックに挑む。マシンのセッティング、タイヤのチョイス、そして、片山の走りが完璧に決まり、1分58秒982のタイムとともに片山の名前がタイミングモニターの最上段に表示された。その後もこのタイムを破る者は現れず、片山はB組トップで見事Q1突破を果たした。

16時13分からのQ2では、ロベルトがタイムアタックの周に走路外走行となり、次の周に再度タイムアタックを行うが、すでにタイヤのグリップがピークを過ぎており、記録は1分59秒613に留まった。それでも10番グリッドを獲得し、決勝での追い上げに期待が高まる。

◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 33℃ (スタート時)

路面温度 50℃ (スタート時)

決勝レース開始 14時45分

レース予定周回数 77周 (約450km)

**#6 DOBOT Audi R8 LMS (片山&ロベルト&神選手)****決勝結果：リタイヤ (所要時間：19分5秒434=9周消化/ベストラップ：2分2秒335=片山選手)**

前夜の雨は上がり、朝から厳しい暑さに見舞われた鈴鹿サーキットでは、14時45分から450kmに及ぶ長距離レースが行われた。このレースでも2回の給油が義務づけられ、また、ひとりのドライバーの周回数が3分の2を超えてはならないというルールが設けられる。

ローリングスタートで戦いの火蓋が切られた決勝は、第1スティントを担当する片山がオープニングラップでポジションを9位に上げ、さらに5周目以降は8番手をキープするなど好調なすべり出しを見せた。

ところが9周目、130Rでマシンの挙動が乱れる場面があり、その後、1コーナーでは止まり切れずにオーバーラン。必死で立て直しを図る片山だったがS字コーナーで左リアホイールが外れ、その先のNIPPOコーナー脇でマシンがストップ。#6 DOBOT Audi R8 LMSはここでリタイヤとなった。

マシンの速さやチーム力をアピールできていただけに、非常に悔しい結果となった第5戦。次の菅生戦に向けては、今回のトラブルの原因を解明し、気持ちを新たに表彰台獲得を狙う。

片山 義章 選手のコメント

Q1がとても上手くいき、決勝もマシンがトラブルに見舞われるまでは満足のいく走りができていました。無事にロベルトにつながっていれば良い結果が期待できただけに、悔しい気持ちでいっぱいです。これからトラブルの原因を追及し、そのあとは気持ちを切り替えて、次の菅生戦を頑張りたいと思います。

ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

鈴鹿はAudi R8が得意とするコースで、実際Q1では全体の2番手タイムをマークしました。前回の鈴鹿戦を欠場した私としては、ぜひとも良い結果を残したいと思っていましたが、決勝途中でレースを終えることになったのは非常に残念です。次の菅生はAudi R8にとってどちらかといえば難しいコースですがベストを尽くして表彰台を狙っていきます。

神 晴也 選手のコメント

予選からマシンやタイヤの良さを引き出せたのは良かったのですが、それだけにトラブルで決勝をリタイヤしたのが残念です。次回の菅生戦では、Q1、Q2で良い流れに乗り、上位を狙えるよう頑張りたいと思います。

チームコメント

Q1は、チームとしてもサクセスウェイトを45kg積んだ状態の中、あれだけのタイムが出るとは思わなかったほどで、Audi R8の速さをライバルにアピールできたと思います。一方、決勝では予想外の事態が発生し、とても驚いている状況です。まずは今回のトラブルの原因をきっちりと解明したいと思います。

次の菅生はAudi R8に有利なコースレイアウトではありませんが、マシンの調子が良いだけに、今回ノーポイントで終わった分を、なんとか取り返すつもりです。

今回のレース結果はチームだけでなく、スポンサーの皆様にとっても非常に悔しい結果です。しっかりと準備をし、スポンサーの皆様やファンの方たちに今回の分まで楽しんでいただけるようなレースをご覧いただけるようにしたいと思いますので、引き続き私たちへの応援をよろしくお願いたします。



